

水質検査結果報告書

採水日時： 2022年8月10日(水)

検査担当者名： 大宮

場所： 大阪城公園 東外堀

検査場所 TECTA 中野LABO

地点 Number	採水時間 Water sampling time	天候 the weather	降水量 Precipitation amount	水温 Water temperature	気温 Temperature	油膜 Oil film	アオコ water bloom	臭気	外観 appearance	透明度
			mm	°C	°C			Odor	色	
①	10:44	sunny	0.0	31.1	32.6	none	none	Odor less	light ocher	1.00
②	10:17	sunny	0.0	31.6		none	none	Odor less	light ocher	1.10
③	10:08	sunny	0.0	31.5		none	none	Odor less	light ocher	0.95

細菌検査									
地点 Number	大腸菌	腸球菌	pH	クロロフィルa	フィコシアニン	COD	DO	全窒素	全リン
	E.Coli	Enterococcus	potential of Hydrogn	chlorophyll a	phycocyanin	Chemical Oxygen Demand	Dissolved Oxygen	total nitrogen	total phosphorus
	fixed	fixed		μg/L	μg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
	CFU/100mL	CFU/100mL	-	μg/L	μg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
①	<1	20	9.24	44.07	2.05	11.7	10.41	0.70	0.10
②	<1	<1	9.12	17.99	0.73	10.1	13.55	0.57	0.09
③	<1	<1	9.08	22.15	0.66	8.8	12.36	0.77	0.09

採水地点情報



コメント： クロロフィル濃度・フィコシアニン濃度でレベル0相当だが、岸にはアオコが少量吹き溜まっている様子が見られた

参考：WT基準

- ・PH値 6~9
- ・大腸菌の濃度が(500cfu/100ml)以下であること
- ・腸球菌の濃度が(200cfu/100ml)以下であること
- ・スカムが観測されアオコの急激な増殖が予想される場合、また水が強く緑色に変色し、濁りがあり透明度が0.5m未満である場合、藍藻検査を実施しなければならない。(藍藻類(シアノバクテリア)が100,000細胞/mlを超えないこと。)

※1 フィコシアニン

アオコの原因となる植物プランクトン(藍藻類)に含まれている色素です。フィコシアニン濃度はアオコの現存量と一定の相関があるため、アオコ現存量の目安になると考えられています。

※2 アオコレベル

アオコの発生状況を視覚的に把握するための指標(参考:国土交通省霞ヶ浦河川事務所HP:<http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00313.html>)。

- アオコレベル1で50 μg/L程度
 - アオコレベル2で150 μg/L程度
 - アオコレベル3で750 μg/L程度
 - アオコレベル4で2300 μg/L程度
 - アオコレベル5で32000 μg/L程度
- (小日向ら, 2012)